

生活

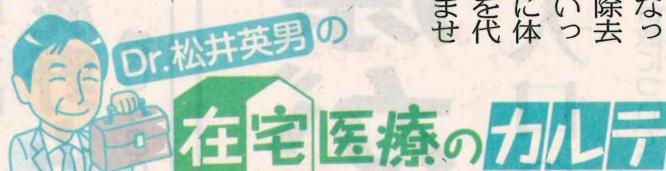
© 東京新聞

●透析治療

慢性腎臓病のため腎不全になつた患者さんは、体の老廃物の除去や、ナトリウム、カリウムといった体液の電解質の調整、さらに体内水分量の調節など、腎機能を代用する治療をしなければなりません。

旬のたべもの
海藻
幼いものが美味。粘りに富んでやわらかく、三杯酢でつるりと食べます。カルシウムが豊富で、高血圧防止にも効用があるそつ。

くらしのこよみ
うつくしいくらしかた研究所



ん。一般的には、透析機器のある病院に週に何度か通う必要があります。

Hさんは、こうした治療をもう二十年以上も続けています。病院の送迎車を利用して通院していますが、自宅でこのような治療ができるれば、自分の時間に合わせた療養生活が送れるはずです。

透析治療が必要な患者が、比較的安全に自宅で受けられる治療法として、腹膜透析があります。これは、腹腔内に透析用の管を留置して、透析液を還流させる方法

在宅といふ選択も

で、血液透析や腎臓移植に移行する前の治療として用いられます。また、血液透析そのものを自宅で行うことも可能ですが、針を刺す

といった行為は自身や介助者が行わなければならず、透析中に起きる血圧の変動などにも対処できる環境が必要です。



人工呼吸器を自宅で使用する。
自宅での透析治療も広がるか

二〇一三年末時点での国内の慢性透析患者は三十一万人を超えており、六十五歳以上の高齢者人口が増えています。主な原因です。また、透析による原因疾患で最も多いのが、糖尿病のもので43・8%を占めています。透析を避けるには、慢性腎臓病や糖尿病の予防を早期から行なうことが重要なことです。

国内の慢性透析患者の治療は、通院による血液透析が大半を占め、腹膜透析を受けているのは全体の約3%、在宅血液透析については0・1%程度です。高齢化社会における透析治療の方法を、患者の生活の質(QOL)や医療経済的な面からも検討することが今後の課題といえるでしょう。

(川崎高津診療所院長)
次回は四月七日掲載